

七寺一切経録外經典 『仏説老女経』  
翻刻・訓読・訳注

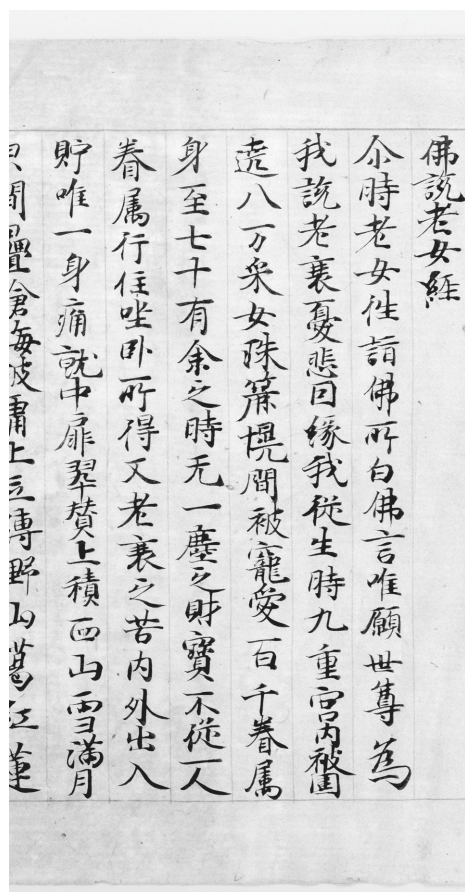
新前  
田島  
信也  
優也

# 七寺一切経録外經典 『仏説老女経』 翻刻・訓読・訳注

前島 信也  
新田 優也

## 凡例

- 一、翻刻の行取は底本の通りとする。
- 一、翻刻は原則通用字体を使用し、誤写等についてもそのまま表記する。虫損等によって判読できない箇所については□で示し、残画から判断した場合は「」で示す。また適宜句読点を施す。



- 一、訓読と現代語訳については、上段に訓読、下段に現代語訳を、内容に対応させながら配置する。
- 一、本経は白文のため、適宜仮名を補いながら訓読する。
- 一、現代語訳に際して補訳・補注は（ ）で提示する。
- 一、この翻刻・訓読・訳注に際して、七寺様より御高配賜りましたこと、また京都国立博物館 研究員の上杉智英氏より、多くの助言をいただいたことをここに記して感謝申し上げます。

## 仏説老女経

爾時老女往詣佛所白佛言。唯願世尊。為

我説老衰憂悲因縁。我從生時、九重宮内被圍

遶八万采女、珠簾幌間被寵愛百千眷属。

身至七十有余之時、无一塵之財宝不從一人

眷属。行住坐臥所得又老衰之苦。内外出入

貯唯一身痛。就中扉翠賛上積西山雪。满月

(1) 扉…「翡」の誤りか。訓読では「翡」とする。

貯唯一身癯弱中扇身考「和」正「三」月  
 白間疊滄海波。膚上立縛野山葛。紅蓮  
 身軀如鬼。歛鏡底對面者鬼神。衆人前有  
 恥辱味食物。如藥汚。輕衣裳如石荷。和吞  
 水如吞茝。如來生同年何以故常少不老。  
 奉見者歡喜。聞名人多利益。我等以何因緣  
 故逼迫。見者誹謗親屬。放出哉。付粉如雨。  
 早霜槐葉。塗朱似灑紅紫藍葉。此老  
 苦從內來耶。從外生耶。佛告老女曰。善哉。汝我  
 問老苦從外不來。唯有汝身內五藏六符中。所  
 謂五藏者。一肝藏。二者心藏。三肺藏。五腎藏。  
 肝藏中有生苦種子。心藏中有老苦種子。肺  
 藏中有病苦種子。腎藏中死苦有種子。又此五  
 藏中生五道之種子。所謂地獄道種子。有肝藏  
 中。餓鬼道種子。有心藏中。畜生道種子。有肺  
 藏中。修羅道種子。有腎藏中。天道種子。有脾  
 藏中。又此五藏中有五智五佛種子。大圓鏡智

貌間疊滄海波。膚上立縛野山葛。紅蓮

身体如鬼形。鏡底對面者鬼神。衆人前有

恥辱。味食物如藥汚。<sup>②</sup>輕衣裳如石荷。和吞

水如吞荒。<sup>③</sup>如來生同年何以故常少不老。

奉見者歡喜。聞名人多利益。我等以何因緣

故逼迫。見者誹謗親屬放出哉。付粉如雨

早霜槐葉。塗朱似灑紅紫藍葉。此老

苦從內來耶從外生耶。佛告老女曰。善哉。汝我

問老苦從外不來。唯有汝身內五藏六符中。所

謂五藏者。一肝藏。二者心藏。三肺藏。五腎藏也。

肝藏中有生苦種子。心藏中有老苦種子。肺

藏中有病苦種子。腎藏中有死苦種子。<sup>④</sup>又此五

藏中生五道之種子。所謂地獄道種子有肝藏

中。餓鬼道種子有心藏中。畜生道種子有肺

藏中。修羅道種子有腎藏中。天道種子有脾

藏中。又此五藏中有五智五佛種子。大圓鏡智

(2) 汚：傍注で「汁」とある。訓読では「汁」とする。  
 (3) 荒：底本では異  
 体字。  
 (4) 有：転倒符あり。

藏中又山五藏中有五智五存存之大願類  
 種子有肝藏中平等性智種子有心藏中法界  
 性智種子有肺藏中妙觀察智種子有脾藏  
 中成所作智種子有腎藏中又阿闍佛種子有  
 肝藏中華開佛種子有心藏中阿弥陀佛種  
 子有肺藏中不空佛種子有腎藏中大日如來  
 種子有脾藏中也譬如有人作歌歌儻儻樂為  
 者得被物<sup>7</sup>綠物<sup>8</sup>為不善人誹謗嘲笑汝迴  
 五道生死荷生老病死憂悲苦惱被物我  
 經和光同塵八相成道之路被三十二相八  
 十種好綠物<sup>9</sup>如<sup>10</sup>善法惡法无<sup>11</sup>心所為墮  
 在三途八難之中得无量患生人道得胎  
 卵濕化卑賤醜陋之形從外不來從心出生  
 也老衰悲泣苦患不撰高下貴賤曳付帝  
 尺炎魔之皂使從外不來從内出來煩惱  
 惡業病患不畏十善帝王妃采女至身  
 躰病苦憂唯心中出來也老女汝六親眷

爲文出下可爲憂身奉効力空...定之片

種子有肝藏中。平等性智種子有心藏中。法界  
 性智種子有肺藏中。妙觀察智種子有脾藏  
 中。成所作智種子有腎藏中。又阿闍佛種子有  
 肝藏中。華開佛種子有心藏中。阿弥陀佛種  
 子有肺藏中。不空佛種子有腎藏中。大日如來  
 種子有脾藏中也。譬如有人作歌<sup>5</sup>儻儻樂<sup>6</sup>為  
 者得被物<sup>7</sup>綠物<sup>8</sup>。為不善人誹謗嘲笑。汝迴  
 五道生死。荷生老病死。憂悲苦惱被物。我  
 經和光同塵八相成道之路。被三十二相八  
 十種好綠物<sup>9</sup>。如此善法惡法。无<sup>11</sup>心所為墮  
 在三途八難之中得无量患。生人道得胎  
 卵濕化卑賤醜陋<sup>10</sup>之形。從外不來從心出生  
 也。老衰悲泣苦患不撰高下貴賤。曳付帝  
 尺炎魔之皂<sup>11</sup>使。從外不來從内出來。煩惱  
 惡業病患不畏十善。帝王妃采女至身  
 體病苦憂唯心中出來也。老女。汝六親眷

- (5) 歌：底本「歌歌」、上一字に見せ消ちあり。(6) 樂：底本では人偏に  
 「樂」。(7) 物：底本「物」に見せ消ち、傍注「物」。(8) 綠：「緑」の誤り  
 か。訓読では「緑」とする。(9) 綠：「緑」の誤りか。訓読では「緑」とする。  
 (10) 陋：底本は阜偏ではなく酉偏。(11) 耄：底本は「老」が「白」で記され  
 る。

屬放出不可為憂。身體筋力容貌愛敬皆去。更願不來。何況外人。盡娑婆一期時被炎魔之召使。四大五陰破時。象阿防羅利逼迫。苦惱河受苦河。愁歎河度三津河。超死手山峨險時。眼前所雖積綾羅錦繡貯。一塵不伴。上馬好車乘物。皆笛<sup>13</sup>生死。旧宅妻子眷屬一人不送。迷途門出。唯我身具行者夜書所作罪業影耳。或主命為名。或為養妻子眷屬。臨江河漁鱗。馳山野殺猪鹿。為利益取用他物。憍慢故自讚毀他。如此罪報將汝令向炎魔獄卒。所思惟衰老苦患。懺悔<sup>15</sup>後世罪報。發一念道心。願求无上菩提。時老女聞此事。發阿耨菩提心。一切大衆信受奉行。

佛說老女經

一校了 慶光

屬放出不可為憂。身體筋力容貌愛敬皆

去。更願不來。何況外人。盡娑婆一期時被

炎魔之召使<sup>12</sup>。四大五陰破時。象阿防羅利

逼迫。苦惱河受苦河。愁歎河度三津河。超

死手山峨險時。眼前所雖積綾羅錦繡貯

一塵不伴。上馬好車乘物。皆笛<sup>13</sup>生死。旧

宅妻子眷屬一人不送。迷途門出。唯我身

具行者夜書所作罪業影耳。或主命為

名。或為養妻子眷屬。臨江河漁鱗。馳山野

殺猪鹿。為利益取用他物。憍慢故自讚毀

他。如此罪報將汝令向炎魔獄卒。所思惟

衰老苦患。懺悔<sup>15</sup>後世罪報。發一念道心。願

求无上菩提。時老女聞此事。發阿耨菩提

心。一切大衆信受奉行。

佛說老女經

一校了 慶光

(12) 召：底本「苦召」、「苦」に見せ消ちあり。(13) 笛：「留」の誤写か。訓讀では「留」とする。(14) 書：「昼」の誤りか。訓讀では「昼」とする。(15) 懺悔：底本は略字で記される。

## 【訓読】

仏説老女経<sup>①</sup>

爾の時老女、仏の所に往詣して、仏に白して言く、

唯願わくは世尊よ。我が為に老衰憂悲の因縁を説きたまえ。我生まれし時従り、九重の宮の内に八万采女に圍繞せられ、珠簾の幌の間に百千眷属に寵愛せらる。身、七十有余に至るの時、一塵の財宝も無く、一人の眷属も従わず。行住坐臥に得る所は、又老衰の苦なり。内外出入にも、唯一身に痛みを貯う。

就中、翡翠の賛の上に、西山の雪を積む。満月の貌の間に、滄海の波を畳む。膚の上に野山の葛の縛が立つ。紅蓮の身体は鬼形の如く、鏡底に対面するは鬼神なり。衆人の前にして恥辱有り。食物の味わいは藥汁の如く、衣裳の軽さは石荷の如く、呑む水の和らかさは吞荒の如し。

如来は同年に生まるるも、何を以ての故に常に少く老いざるや。見奉まつる者は歡喜して、名を聞く人利益多し。我等何の因縁を以ての故に逼迫し、見る者誹謗し親属の放出するや。粉を付すも早霜の槐葉に雨ふる

## 【現代語訳】

仏説老女経

その時、老女は仏の所に参上し、仏に（以下のように）申し上げた。

ただ願わくは世尊よ。私のために老衰憂悲の因縁について説いてください。私は生まれた時より宮中で八万の女官に囲まれて、珠簾の幌のなかで百千の眷属に寵愛されておりました。（しかし、私の）身が七十才を過ぎてからは、少しの財宝もなく、一人の眷属にも付き従われず、ただ行住坐臥に老衰の苦しみを得ております。（それは体の）内にも外にも、息を吸ったり吐いたりすることなどでも、この身に痛みが蓄積されていくのです。

とりわけ、翡翠の（ように黒々としていた）頭の上は、西山に雪が積もるように（白髪となり）、満月のような（ふくよかであった）顔には蒼海の波のように（皺が）畳まれました。肌の上には野山に生える葛のように血管が浮き出ており、赤くなつた身体は鬼の形のようにであり、鏡に映るものは鬼神のようです。（そのような姿で）人々の前に現われるのは恥ずかしいものです。食べ物を食べても黄檗の汁のような味に感じ、着ている服の重さも石を背負っているようです。水を飲むにもとげとげしく感じってしまうのです。

如来は同じ年に生まれたのに、どうして常に若くあつて老いがないのでしょうか。（仏を）見るものは歡喜して、（仏の）名を聞いた人には利益が多くある。（一方）私たちはどのような因縁によって苦しんで、（私を）

が如く、朱を塗るも紅紫の藍葉に灑るが似し。此の老苦は、内従り来たるや、外従り生ずるや。

仏、老女に告げて曰く、

善きかな。汝、我に問うことの老苦、外従り来たらず、唯汝の身内、五蔵六符中に有り。所謂る五蔵とは、一肝蔵、二は心蔵、三肺蔵、五腎蔵なり。肝蔵の中に生苦の種子有り。心蔵の中に老苦の種子有り。肺蔵の中に病苦の種子有り。腎蔵の中に死苦の種子有り。又此の五蔵の中に五道の種子を生ず。所謂る地獄道の種子、肝蔵の中に有り。餓鬼道の種子、心蔵の中に有り。畜生道の種子、肺蔵の中に有り。修羅道の種子、腎蔵の中に有り。天道の種子、脾蔵の中に有り。又此の五蔵の中に五智、五仏種子有り。大円鏡智の種子、肝蔵中に有り。平等性智の種子、心蔵中に有り。法界性智の種子、肺蔵中に有り。妙觀察智の種子、脾蔵中に有り。成所作智の種子、腎蔵中に有り。又阿闍仏の種子、肝蔵中に有り。華開仏の種子、心蔵中に有り。又阿弥陀仏の種子、肺蔵中に有り。不空仏の種子、腎蔵中に有り。大日如来の種子、脾蔵中に有るなり。

喩えば有る人、歌儺・猿楽を作らんと為ば被物・禄物を得て、為し善からざる人は誹謗嘲笑さるるが如し。汝、五道生死を廻り、生老病死・憂

見るものは誹謗し、親族に見放されたのでしよう。(たとえ私が)白粉を塗っても槐の葉に降りた霜に雨がふるように(すぐに消えてしまい)、紅を差しても、紅葉した青葉に斑らになってしまいうようなものです。このような老苦は、(私の)内から生じたものであるのでしょうか、外から生じたものであるのでしょうか。

仏は老女に(以下のように)告げた。

良きかな。あなたが私に尋ねた老苦は、外からきたものではなく、あなたの体の内側、五臓六腑の中にあるのです。いわゆる五臓とは、一つに肝臓、二つに心臓、三つに肺臓、(そして)五に腎臓です。そして肝臓のなかには生苦の種子があり、心臓のなかには老苦の種子があり、肺臓のなかには病苦の種子があり、腎臓のなかには死の種子があります。

またこの五臓のなかには五道の種子も生じます。地獄道の種子は肝臓のなかであり、餓鬼道の種子は心臓のなかであり、畜生道の種子は肺臓のなかであり、修羅道の種子は腎臓のなかであり、天道の種子は脾臓のなかにあります。またこの五臓のなかに、五智・五仏の種子もあります。

大円鏡智の種子は肝臓のなかにあり、平等性智の種子は心臓のなかにあり、法界性智の種子は肺臓のなかにあり、妙觀察智の種子は脾臓のなかにあり、成所作智の種子は腎臓のなかにあります。そして阿闍仏の種子は肝臓のなかにあり、華開仏の種子は心臓のなかにあり、また阿弥陀仏の種子は肺臓のなかにあり、不空仏の種子は腎臓のなかにあり、大日如来の種子は脾臓のなかにあります。

喩えばある人が、歌舞・猿楽を作って被物・禄物を得る(一方で)、もし善くないと思う人がいれば誹謗嘲笑するようなものである。あなたは、

悲苦悩の被物を荷う。我、和光同塵・八相成道の路を経て三十二相八十種好の祿物を被る。

此の如き善法・悪法、心所ならざること无きが為に、墮して三途八難の中に在して、无量の患を得て人道に生ず。胎卵湿化・卑賤醜陋の形を得ること、外従り来たらず、心従り出生するなり。老衰の悲泣苦患は、高下貴賤を撰ばず。帝尺炎魔の耄使<sup>24</sup>を曳き付くこと、外従り来たらず、内従り出で来たる。煩惱悪業病患は十善を畏れずに帝王妬妃采女までに至る。身体の病苦の憂は唯だ心中より出で来たるなり。

老女よ。汝六親眷属に放出さるを憂と為すべからず。身体筋力容貌愛敬は皆去る。更に願つても来たらず。何ぞ況や外人<sup>25</sup>をや。娑婆の一期が尽きん時、炎魔の召使を被らん。四大五陰<sup>26</sup>を破する時、象、阿防羅刹<sup>27</sup>逼迫す。苦惱河、受苦河、愁歎河、三津河<sup>28</sup>を度り、死手山の嶮険なるを超えん時、眼前の並べ積まれたる綾羅錦繡<sup>30</sup>の貯え一塵も伴わず、上馬好車乗物も皆生死に留む。旧宅の妻子眷属一人も迷途の門出を送らず。唯だ我が身に具する行者は夜昼に作すところの罪業の影のみ。

或いは主の命を名<sup>31</sup>と為て、或いは妻子・眷属を養わんが為に、江河に臨んで鱗を漁り、山野を馳して猪鹿を殺す。利益の為に他物を取用す。僞

五道生死をめぐって、生老病死・憂悲苦悩という被物を背負いました。(二方) 私は和光同塵・八相成道の路を経て、三十二相・八十種好の祿物を得ました。

このような善法と悪法は心を原因として生じる物であるので、三途八難のなかに墮ちて、多くの患いを得て、人道に生じます。胎卵湿化・卑賤醜陋の形を得ることも、外からではなく心から生じるものなのです。老衰の悲しき苦しみは、身分の貴賤によって選ばれるものではありません。帝釈天の炎魔の使いを引きつけてしまうのは、外からではなく、内から生じるものなのです。煩惱・悪業・病気は、十善を恐れる事なく帝王や后妃、采女にまでやってきます。身体の病苦の憂はただ心の中から生じる物なのです。

老女よ。あなたは親族に見放されたことを悲しむことはありません。身体・筋力・容貌・愛敬も無くなってしまうましたが、いまさら願つても戻ってくることはありません。さらに親族以外の人であるならば言うまでもありません。娑婆での一生が終わる時、炎魔の召使がやってきます。肉体が失われるときに、象・地獄の獄卒が迫ってきます。苦惱の河・受苦河・愁歎河の、三津の河を渡って、険しい死手山を越えるとき、目の前に並べ積まれた豪華な服の蓄えも全く持つて行くことができません。上馬・好車・乗り物もみな生死に留まるのです。(生きていた時の)旧宅の妻子眷属がひとりも(あなたの)迷途の門出を送ることなく、ただ自分自身に従う行者は、私自身が昼夜におこなった罪業の影だけなのです。或いは主人の命令のもとに、もしくは妻子眷属を養うために、川に行つて魚を取り、山を走って猪鹿を殺す。利益のために他人の物を盗む。驕



② 慢なるが故に自ら讃じ他を毀す。此の如き罪報が將に汝を炎魔獄卒に向  
わしめんとす。思惟する所、衰老苦患、懺悔するは後世の罪報。一念道  
心を発して无上菩提を願求せよ。

時に老女、此の事を聞きて阿耨菩提心を発す。一切の大衆、信受奉行す。

## 注

- (1) この經典は『玉造小町子壮衰書』、『新猿樂記』との関連が指摘できる。『玉造小町子壮衰書』については、女性と老苦に関する内容である事、本文中の「七十有余」という具体的表現、「錦繡」「珠簾」「翡翠」といった語句の一致から、『新猿樂記』については、語句と表現の一致から判断される。いずれも平安期成立の典籍であり、その成立背景が近似することを窺わせる。
- (2) 対句「九重宮内被圍繞八万采女／珠簾幌間被寵愛百千眷属」。
- (3) 九重…このえ。内裏。宮中。
- (4) 八万采女…「八万四千采女」の表現であれば、『四十華嚴』内に用例がある（正蔵一〇・七八六上）。また、追句として対応する「百千眷属」も位置は異なるが『四十華嚴』に用例がある（正蔵一〇・七六二上）。
- (5) 珠簾…珠玉で飾ったすだれ。
- (6) 七十有余…小野小町の没落の時期と一致するか。
- (7) 対句「翡翠賛上積西山雪／満月貌間暄滄海波」。
- (8) 賛…意味が取れず。対句表現から「貌」に対応する「頁」（頭の意）の誤写であると推定。
- (9) 翡翠のゝを積む…「翡翠」に髪を示す意味があることから、黒々とした髪が「西山の雪」のように白髪となってしまったことを指すか。
- (10) 満月のゝを畳む…「満月貌」はふくよかな顔から、「滄（蒼）であれば「年

慢であるために、自賛し他人を誇る。このような罪報が、まさにあなたを炎魔の獄卒にむかわせようとするのです。思うところは衰老苦患、懺悔するのは後世の罪報。一念に道心を起こして無上の菩提を求めなさい。この時老女は仏の説示を聞いて阿耨菩提心を発しました。一切の大衆はこれを信受して奉行しました。

- 老いた」という意味がある）海の波」のように皺だらけの顔になってしまったことを指すか。皺を波に喩える表現は『新猿樂記』「第一」にも見える。
- (11) 膚の上ゝが立つ…筋張った、もしくは血管が浮き出たような痩せこけた肌を指すか。
- (12) 対句「味食物如藥汁／輕衣裳如石荷／和吞水如吞荒」。
- (13) 藥汁…黄藥の汁。
- (14) 如来…本経冒頭は「仏」を使用する。老女の語り部分であるため「如来」とするか。
- (15) 対句「付粉如雨早霜槐葉／塗朱以灑紅紫藍葉」。
- (16) 槐…マメ科の落葉樹。
- (17) 灑る…ちる。口紅を塗ったとしても荒れた唇では斑になってしまふということ。
- (18) 五臟六腑…本来は五臟六腑であると考えられるが、ここではそのまま表記する。「五臟」の表記は『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』二（『正蔵』二一・五四五上）、『陀羅尼雜集』二（『正蔵』二一・五八六中）などで確認できる。
- (19) 五藏…『佛頂尊勝心破地獄轉業障出三界祕密三身佛果三種悉地眞言儀軌』『正蔵』一八・九一四下）では以下のように記されている。  
五藏 肝…赤蓮華・東方・阿闍仏 肺…青蓮華・西方・無量寿仏 心…黄蓮

華・南方・寶生仏 腎：紅蓮華・北方・釈迦 脾：白蓮花・中央・大日如来

また、『往生要集』上(『正藏』八四・三八上)でも五蔵を挙げる。ただしここでは脾臓を除いた四つしか提示していない。次の記述にある生老病死の記述に対応させているか。

(20) 華開仏：開敷華王如来を指すか。五仏では寶生如来が配当される。「華開仏」の用例は今のところ『仏名経』と『勝軍不動明王四十八使者祕密成就儀軌』のみで確認。「開敷王如来」としては、『一字仏頂輪王経』、『大日経』などに見られる。また、この経典では五智と五仏が対応しておらず、阿弥陀如来と大日如来が逆転している。

(21) 歌舞猿ゝが如し：「歌舞猿衆を作らんと為ば被物・禄物を得て」と「為し善からざる人は誹謗嘲笑を為す」が一部不自然ながらも対比となるか。もしくは脱文を想定し、「(為し善き人は)被物・禄物を得て」と考えるべきか。

(22) 被物・禄物：『新猿楽記』に被物・禄物の用例を確認。ここでは被物を「かつけもの(纏頭)」とし、禄物を「禄賜也」とする。

(23) 汝五道ゝを被る：「汝廻五道生死。荷生老病死。憂悲苦惱被物／我経和光同塵。八相成道之路。被三十二相。八十種好縁物」となり、不完全な追句表現となっている。

(24) 耄使：老人の姿をした使いのことか。

(25) 外人：家族・親戚・仲間などではない人。

(26) 四大五陰：肉体のことを指すか。

(27) 阿防羅刹：地獄の獄卒。

(28) 苦惱河受苦河愁歎河三津河：「三津河(三途の河)」を「苦惱河」「受苦河」「愁歎河」の三つの河として扱う事例を他に確認できず。

(29) 死手山：しでのやま。『十王経』の「死天山」を語源とするか。『十王経』も日本撰述偽経とされる。

(30) 綾羅錦繡：美しい衣服、美しく着飾ること。

(31) 名：ここでは、「形式」「理由」の意味で取る。

(32) 橋慢：『老女経』という老女の為に説かれる経典の中で、驕慢の罪の大きさが殺生・偷盗と並んで記されることは注目される。これは『玉造小町子壮衰書』の内容や、『十訓抄』とも関連するか。